

# 矢作川流域圏懇談会通信

H27 川部会編 vol. 1



発行日：平成 27 年 6 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 25 回川部会WGを開催しました！

5月29日（金曜日）に第25回川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、昨年度の活動の報告と今年度の活動の進め方について、意見交換を行いました。



日 時：平成 27 年 5 月 29 日（金） 18:00～21:00  
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室  
参加者：21名（事務局含む）

## ◆主な意見交換内容

### 1.本日の話し合いで決まったこと



#### ■本川モデルの活動方針について

- 国、県、市の計画の整合性を再度確認するとともに、既存の情報を踏まえた（仮）保全エリアマップを作成していきます。
- 市、県の矢作川に関する検討委員会（豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会、矢作川上流圏域流域委員会など）の検討内容について情報共有し、連携を進めていきます。

#### ■家下川モデルの活動方針について

- ①越冬場の機能②魚が行き来できる（ネットワーク）の2条件が可能となる理想のモデルを検討していきます。①については、家下川リバーキーパーズによるアイデアを含めて提案していきます。
- 昨年度実施の設計成果による工事位置や工事内容等について説明いただき、望ましい形について関係管理団体と意見交換していきます。

#### ■地先モデルの活動方針について

- 今後も現地に赴き、活動団体へのヒアリングを継続します。
- （仮）専門家リストの改良を進め、活動団体マップを作成します。

#### ■WGの進め方及び山川海の流域連携について

- 他地域への展開モデルとなる具体的な形を示すための検討を進めていきます。
- 理想となるモデルを示すために必要となる調査や効果評価、マップ化のプロセス整理やまとめ方について検討していきます。
- 土砂問題については、総合土砂管理検討委員会及び別途開催される技術検討WG等の検討状況を勘案しながら検討を進めていきます。
- 山川海流域連携の『土砂』担当者は次回以降に検討します。

#### ■今後のスケジュールについて

- 当面のスケジュールは、6月家下川モデル、7月本川モデル、8月地先モデルとします。各WGでは、その他モデルの進捗状況についても適宜確認していきます。
- 6月家下川モデルは、6月22日の平日週に開催予定とし、管理関係団体と意見交換を行いながら、望ましい形について意見交換します。
- 7月本川モデルは、7月18日（土）（予定）とし、先進地域である小渋ダムを視察します。
- 8月地先モデルは、8月24日（月）午後（予定）とし、（仮）専門家リスト案等について意見交換します。



## 2.意見交換



### ●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

#### (1) 本川モデルについて

- ・国交省では環境管理計画を持っているのか。我々はその計画に見合うものを作ろうとしているのか。(本守)
- ・豊田市の矢作川河川環境活性化プランと国交省の河川環境管理計画との位置づけはどうなっているのか。(小澤)
  - ▶ 空間管理計画というものは従前決めている。一方で、高水敷を最も利用する地元の方たちの意見も重要。忌憚のない意見をいただくことと並行して整備計画の勉強会も継続していきたい。(事務局)
- ・計画上の整合性がどうなっているのか確認したい。我々が保全エリアマップを作成する際に、もともとの情報(豊田市の計画や治水上の計画等)がどのようになっているのかを踏まえて議論しなければいけない。(鷲見)
- ・関係する委員会として愛知県で矢作川上流圏域流域委員会が6月1日に開催される。本川モデルと共通の話題も議論されるようなので、県に説明を依頼するなどして、担当と連携していった方が良いと思う。(内田)

#### (2) 家下川モデルについて

- ・今年の秋～冬に現在魚の越冬地となっている排水機場を改修することになっているため、そのタイミングで中の生き物を移動したいと考えている。家下川リバーキーパーズとしては、工事時に設置される矢板の上流側に池を作成し、魚を移動させる案を提案していきたいと考えている。現在は、どこに話を通したら良いか考えているところである。(阿部)
- ・以前の県説明では、実施設計ができ上がった段階で段差の話について相談させていただけるという話であった。どういった工事内容になったのかにより、現状で対処できる問題なのかの判断が変わると思う。(本守)
  - ▶ 現在の設計状況を確認し、意見交換していきたい。一方で、①越冬場の機能を持つ②魚が行き来できる(ネットワーク)、この2点を担保できるモデルを形として提示し、ドキュメント化することが重要だ。(鷲見)
- ・(排水機場)周辺の水の流れが分からない(小澤)
  - ▶ 小澤さんの質問に関しては勉強しておく。(山本)

#### (3) 地先モデルについて

- ・現状の方法では2~3団体/年と活動団体へのヒアリング数が少ないのではないかと。関係する活動団体に集まっていたら一斉にヒアリングするなど、方法を変えて積極的に実施するべきではないか。(本守)
- ・(仮)活動団体リストはできたが、連絡方法の整理がまだできていない。できているリストは提供する。(山本)
  - ▶ 各活動団体の代表者や連絡先については、市のHP等から閲覧が可能である。(伊奈)
  - ▶ 活動団体マップの公表についてはWGで議論していきたい。また、課題の抽出用としてもマップ化はしたい。(鷲見)
  - ▶ 川との距離感、分布状況を把握するためにもマップは必要だと思う。(内田)

#### (4) WGの進め方及び山川海の流域連携について

- ・モデルとして挙げた以上は、各モデルについて形として示す、あるいは方向性を示す必要がある。(光岡)
  - ▶ 必要な調査や効果評価、目指す姿のマップ化のプロセスや誰がまとめていくのかについて決めていかなければいけない。家下川モデルは時間が無いので、早めに決めておきたい。(鷲見)
- ・山川海流域連携の土砂担当者を早急に決めることが必要である。(内田)
- ・現状の矢作川水系総合土砂管理検討委員会では、ダム上下流の土砂収支の話しかされていない。下流の方では地形の話を含めて検討されているのか、技術的にはどういった話になっているのか。(鷲見)
  - ▶ 今年度の委員会では別途専門家による技術検討WG(ダム装置に関するWG、河道・環境WG)を立ち上げて、細かい話をやっていく予定である。また、関係者(事業者、管理者、利害関係者等)を集めた意見交換の場も持っていく。昨年度委員会の検討結果は、6月前半にHPにて掲載する予定である。(事務局)
- ・東幡豆のような土砂の運搬活動を継続的に実施できれば、市民団体等で健康診断ができるのではないかと。(松井)

#### (5) 振り返り

**よかったと思うこと:** 土砂の事も少しはできたことは前進できたと思う。/人数が少なく発言ができた。私の課題が明確になった。/議論すべきことが改めて確認できたので、少しずつ形として残していくような方向性が見えたこと。

**よくなかったと思うこと:** 会議時間が延びすぎた。/スケジュール案が必要だった。/モデル地区の具体化を明確にしたい。

**今後取り組んでいきたい活動など:** 川の健康診断をやろう(森下方式:川のHの条件)。/モデルを形として明らかにし、他の地域に波及する方向で活動できると良いと思います。

## 今後の流域圏懇談会の予定



- 第26回川部会 WG 日時:平成27年6月22日の週(平日開催) ※詳細日時はMLにて決定します。  
内容:家下川モデルに関する管理関係団体との意見交換など



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

